

## 戴いた手紙等・二 たなか踏基

拙著「奇妙な喫茶店」見本書籍を一冊づつ包み丁寧な挨拶状と謹呈短冊を挟み込んで、冊子小包で郵送する作業で一月上旬まで忙殺された。全国配本が、一月に開始され約二ヶ月過ぎた。文芸書の出版は全くの初めてであったから、果して売れるのかと危ぶむ気持ちで一杯だった。

ところが、郷里の親しい高校友人の口「効果は絶大で、小説舞台の信州松本地域で、本は意外に好評だった。書籍売筋ランキングでは、十一位から暫時上昇し、一過性ではあったが六位に入った。正直言って、NHKTV長野局の放映VTRを観るまでは、版元の知らせにも半信半疑の有様であった。この結果は素人作家の私を狂喜させた。以下寄せられた手紙の一部を披露したい。

《恵贈書籍ありがたく拝読。一読して興奮さめやらぬものあり。久し振りなる文学的文体。ネットでは判らぬものなり。懐かしき「まるも」健在なるを知り安堵せし。横濱の伊勢佐木町の由来、何故伊勢崎にありぬべきという疑問氷解したり。山形、新潟、長野には凝洋風建築、点在したり。かく建築物を求めて放浪したるは記憶さだかならねども、一九八〇年度あたりなるや。重厚的文体に触れ、言文一致ならざる文体を深く謝す。ああ我、ただ散文家ならざるを恥ず。curiousでふラテェン語の語彙の意味をはじめて知りたる心地す。この著作、必ず一時代を活写したる記念物となるべし。一本の草笛のおよぶべきにあらず。春の夜の幻ならば石亀楼／＼草 謝謝再来》

《まや通俗小説に毒されている私には、到底ついて行けないものを感じます。昔、花村満月の98年の芥川賞「ゲルマラムの夜」が文芸春秋に掲載されたのを読んだ時のことを思い出していました。このように純文学スタイルの小説が存在するのは頭では理解しますが、私にはたなか踏基さんの両小説、とても難解でした。高校生、大学生までもう少し感受性が豊かな時代だったら、少しは理解できたのかもしれないが、頭が固くなった今では、好きなようにさせてくれと放り出したくなりました。以下コメント、無味乾燥な技術屋バカが齢を重ねただけの呆け爺の独り言と聞き流して下さい。

1 小池光氏の序文は、むしろ推奨といふことで後ろにあつた方が良かったのでは？小池氏の魅力に誘われる読者も結構いるのでは？

2 解説が多すぎる。筋書きを追う読者向けに、主人公に語る方法があつたのでは？

3 知識を出しすぎる。造詣の深さをもつ小出しにして、別な作品に活かしても良かったのでは？

《三月にしては寒い日がここ信州では続いておりましたが、この頃は少し暖かくなって、お彼岸を迎えました。一ヶ月程前、お姉さまより踏基さんのことお聞きしてびっくり致しました。お姉さまとは、もう五、六年も一緒に俳句であそんでおりましたの・・・程度、俳句のお仲間の句集出版の祝賀会の折に弟さんが踏基さんとお聞きして・・・しばらくして「奇妙な喫茶店」のご本を戴きました。出版されて間もなくの時でした。一見、漢字は多いし、字は小さいし、何だか読みにくそうな印象でしたが、読みはじめましたら面白

くて憑かれたように読み終わりました。「松本」「まるも」「梓川」「松本電鉄」「新島々」等、私の住んでいるこの周辺が舞台なのでとても身近に感じ乍ら読みました。何でもずいぶんお若い時に書かれた小説ということ、やはりすごいなアと感服致しました。これから何人かの友達にまわして読んで戴こうと思っております。またおもしろい小説を出版して下さいませ。楽しみにしております。では御身体お大事になさって下さいませ。》

《著者サイン入りの謹呈本というのは、なかなかわくわくしますね。まして自分の文章フレーズの一部やハンドルネームが巻末のエッセイにちりばめてあるのは、まるで踏基さんのジャムセツションにちよつとだけ飛び入りできた感じで嬉しいのです。「奇妙な喫茶店」に松本の「まるも」がでてくるのでびっくりしました。私はずつと東京ですが、高校ワンゲル部以来、登山をやつていましたので松本は思い入れの深い憧れの街でもありました。昔、よく山の帰りの夕方の帰り列車までの時間を松本の街中を散策するのが楽しみでした。縄手通りが好きでよくぶらつきました。女鳥羽川対岸の「まるも」は何時も気になっていました。結局実際に入ったことはありません。むしろJAZZ喫茶の「エオンタ」に必ず寄っていました。残念ながらあそこはオリジナルマツチがなかったのです。序文の小池光さんという方は不勉強にして存知上げませんが、桑原武夫の話やチョゴリザ遠征云々という文がいきなりでてきたのには、これにもびっくりしました。拾い読みの中にもかよう

に何とも不思議な自分のキーワードが散らばっているようで奇妙な感じがしました。》

《暑さ寒さも彼岸までーとは言われませんが今年の陽気は定まらぬ毎日です。この度は、思いがけぬことから親しい句友の弟さんがたなか踏基さんと知りました。中学時代のたなかさんのこと良く覚えております。二年四組でした。そして「奇妙な喫茶店」を頂くことになり拝読しました。「まるも」とか「松本帰郷」の中に出てくる地名が、

懐かしいこと限りなし。一気に読みながらあの時の中学生が何時の間にか小説家になられたのかと不思議な思いが致しました。素晴らしいことです。誠にありがとう御座い

ました。さて同封の句集、全く平々凡々日常的なやさしい拙句ばかりです。お恥ずかしいのですがお送り致します。お目通し頂ければうれしく思います。お姉さまとは親しくさせて頂いております。俳句では個性派の才女です。益々ご精進され、作品を楽しみにしております。季節の変わり目くれぐれもご自愛くださいませ。昔を懐かしみこれからを期待して筆を置きます。厚く御礼申し上げます。》

《先日面白いですって良いのでしょうか？立派な小説をお送り戴きましてありがとうございます。主人は以前以上に病状が進行して居りまして、自分で本を読む事もできなくなっています。この一冊の本も

二人のヘルパーさんの協力を得て、一人は本をリフトのアームに取り付け一頁づつ頁をめくって読ませてくれまして、もう一人は音読を・・・この様にして読むことができました。音読をしてくれましたヘルパーさんは、娘と同じ年のかたですが、彼女も読み終えて、私に「奥さんこれ面白かったですヨ！」と言っていましたし、主人も

「スゴイナ」と感心しております。本当でしたら、早く主人も読みたかったでしょうが・・・私も主人についてばかりは居られませんので、ヘルパーさんの協力ですと読み終えたというところ。本人も自分で感想を伝えたいと思えますが、その理由は失っていますので、私が代筆させていただきますました。ただ長文は少々時間が掛かって無理ですが、パソコンのメールを出すことは可能です。類にセンサーを当てて入力する特別のパソコンなのです。でもそのパソコンのお陰でインターネットを楽しみ、午前中はそれで新聞を見たり社会情報を得ています。主人のアドレスを記入しておきますので、ご都合の宜しい時にでもメールを入れてみて下さい。今我家は全てリフト使用、ベッド、車椅子、家の外に出るときは昇降機、お風呂もリフトで入浴、車で外出する時は、移動可能なリフト、そのお陰で私は楽になりました。この手紙が先か、荷が先かわかりませんが「千福」をお祝いさせて戴きました。主人がたなかさんは「千福」がいいと申しましたので・・・

以前「千福」に関するお話があったとか？ぜひ広島のお酒を味わってみて下さい。立春とは名のみで、先日も広島には珍しく雪が十五センチ程積りました。今日もその名残の雪があります。お互い年齢はどうしようもありませんので、呉れ呉れも御身体ご自愛下さいまして、益々のご活躍をお祈り致します。追伸奥様にもよろしくお伝え下さいませ》

《池光氏の序文はすばらしい文章です。わがごとくよつに嬉しく存じます。思いつけない人との出会いは「いつかの偶然」によって「起きるのかもしれない」が、それは決して単なる偶然の出来事ではないような気が致します。それは常に創造活動や真理探究をめざして努力する人に与えられる特別な「褒美」ではないかと思えます。いつまでも若々しい気力もちづづけて、行動していつではありませんか。今回の出版のと本当によかったです。》

かよつに、人々から寄せられた暖かい激励、歯に衣着せぬ忌憚なき意見、まさか作家に転進するとはと意外性に驚く読後感想の手紙は何れも小説を出版してよかったのだと実感するものばかりであった。特に、頸椎損傷し寝たきりの、元会社同僚の奥様からの代筆の手紙は涙無くしては読めなかった。NHKの番組を観た人からもメール戴き感謝の他は無い。実に、中学以来音信不通の女友達や英語の恩師から、はたまた母校大学学長の文もあったのである。

了